

【若桜町】校務 DX 計画

令和5年12月27日付5初修教第15号「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告について（通知）」（以下「自己点検結果」という。）の自治体別達成状況においては、若桜町は全国平均を上回る結果であった。

校務DXの推進が図られている事項も多くあるが、特に課題のある事項について今後重点的に取り組む。

1 クラウドツールの活用について

クラウド環境を活用した保護者へのアンケート、出欠確認、職員間での資料の共有などが教職員に定着しつつある。しかし、教職員のICTリテラシーの不足やクラウドツールのさらなる活用に対する抵抗感がある。この課題を解決するために、教職員が作成した資料の情報共有や児童生徒への各種連絡及び課題提出などにクラウドツールを活用することの有効性について理解を深めていく。また、職員会議等の資料をクラウド上で共有することによりペーパーレス化を図る。

2 FAX及び押印の見直しについて

FAXでの学校と教育委員会間でのやり取りは既に行っていない。また、書類への押印については見直しを行い、一部の文書を除いて原則押印を廃止とする。

3 生成AIの校務での活用について

個人情報や機密情報の保護に細心の注意を払いながら、校務の効率化や質の向上に向けて生成AIの効果的な活用について検討を行う。

4 教育情報セキュリティポリシーの策定について

令和6年度時点では自治体の情報セキュリティポリシーを準用しており、学校教育独自の教育情報セキュリティポリシーを策定していない。今後、クラウド上のデータやクラウドサービスを活用することを前提とした教育情報セキュリティポリシーを策定し、学校へ周知するとともに、適切な情報資産の管理を行う。